

一五、農工調整上現下の中心課題は勞務に関するもの
であり、それは直接には總生産力の維持急速なる増進
を目標としてゐるが、このことは農工兩者が夫々擔つ
てゐる經濟的任務や生活の特徴を理解し合ひ補強すべ
く努め、相共に感情的にまむ共感することによりは達
成し難いのである。

農業と工業といふ如く或は手工工業と近代的工場とい
ふ如く人々が従事してゐる生産の基調に差があること
その生活の様式は素よりそこに成り立つ社會的慣習や
感情、道徳までも夫々特徴を帯びるのである。そして
一社會の内部にあつて相互に影響し合ひつゝ、進展する
のである。

然し支那事變以來の我國の如く、工業の發展が著し
く急激に行はれる際には雇はる者の關係は歪みを生じ
一面に於て近代的に組織された工場生産に従事する勞
務者の序へ方がいつまでも農民の或は手工業者の特徴
を存して容易に科學的技術を採り入れることを拒み、
それか工場の組織的大量生産の桎梏となる場合がある
と共に、他面に於ては工場管理方式が早まらぬ工場
生産的に行はれた外國の方式に従ひ、農村の生産事情
、農民の生活様式、慣習、感情等を顧みない結果却つ
て生産増強に負の作用を及ぼしてゐる場合も少なくない
。これ等の問題は工業の地方分散以來一層注目すべき
事項となりつゝある。